



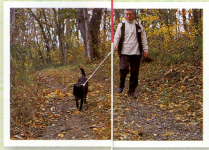
甲斐犬

見た目は地味ですが、わび・さびという、日本人の気持ちに通じるものを持っています。



KAI-KEN

小林 連治さん
山梨県北杜市在住、甲斐犬愛護会に所属する「甲斐犬源友会」代表。甲斐犬の虜になり、愛護と普及に力を注ぐ。



目の前に甲斐駒ヶ岳を望む山梨県北杜市の別荘地で、現在、甲斐犬たちと悠々自適の日々を送っているのが小林連治さんだ。

東京生まれで東京育ちの小林さんは、川崎市に住んでいた20年ほど前、山梨の知人から甲斐犬を譲られて飼いはじめ、その虜になった。

「甲斐犬の魅力は日本犬の中でも、原種に近いこと。見た目は地味ですが、人間が何を言わんとするかを察知する利口さがあり、わび・さびという、日本人の気持ちに通じるものを持っています」

会社経営者だった小林さんは、購耕雨読にあこがれて引退した後、

山梨県内の牧場を借りて甲斐犬の愛護と普及に力を注ぎ、甲斐犬愛護会に所属する「甲斐犬源友会」代表となった。「同じ甲斐犬でも、いい犬を作りたい、それがわたしたちの仲間の一番の目的です」

しかし、長らく人里離れた山中で生きてきた甲斐犬だから、いい

犬、同士を交配させても、いい犬が生まれるとは限らない。小林さんは容姿の優れた犬は競覧会を志す人に、それほどでもない犬は家庭犬を望む人に譲っている。

なお、小林さんは牧場住まいの後、いったん川崎に戻り、1年前、知人の保有する、南アルプス山麓の別

荘に移住した。「越してきた時、野生のサルの群れに出合っただけ驚かしました。甲斐犬が山の中を走る姿は本当にいいですね。キジでも近くにいると、すぐにポイントします」。

愛犬「水無月」と雑木林を歩きながら、小林さんは目を細めた。甲斐犬ばかりで、幼の日本犬と形容された。しかし近年、源友会にホームページを見て、若い夫婦は家

庭犬に、年配者は山歩きに「ぜひ、甲斐犬を」と入会する人が増えた。春秋、山梨県内で開かれる競覧会に、東北や九州から参加する若い会員もいるとか。

「このころは若い女の人や家族連れが競覧会にやって来て、にぎやかですよ。これも、時代ですかね」